

平成 20 年 7 月 22 日

各 位

会社名 イーシステム株式会社
(コード番号: 4322)
代表者名 代表取締役社長 渡辺 博文
問合せ先 経理部 松本 千洋
(TEL. 03-6811-0003)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等に踏まえ、平成 20 年 1 月 28 日に発表した中間期の連結業績予想並びに単体業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

平成 20 年 12 月期中間決算 連結業績予想数値 (単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	2,600	40	50	10
今回修正予想 (B)	2,931	21	2	△180
増減額 (B - A)	331	△19	△48	△190
増減率 (%)	12.7	△47.5	△96.0	—
前期実績 (平成 19 年 12 月期中間決算)	1,661	△357	△341	20

2. 単体業績予想数値の修正

平成 20 年 12 月期中間決算 単体業績予想数値 (単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	1,100	10	20	15
今回修正予想 (B)	1,322	43	42	△158
増減額 (B - A)	222	33	22	△173
増減率 (%)	20.2	330.0	110.0	—
前期実績 (平成 19 年 12 月期中間決算)	955	△193	△152	74

3. 修正の理由

単体業績では、第1四半期までの好調なCRM関連売上加え、昨年来取り組んできたキャノン電子株式会社との協業の成果が顕在化し、売上高は当初の予想を上回る見込みとなりました。また、利益率の高い自社開発製品が順調に売上を伸ばし、全体の売上総利益率を押し上げました。コスト面では、徹底したムダ取りを実施したことにより、販売管理費は前年同期比89百万円の減少となり、単体営業損益および経常損益は黒字となりました。一方で、当社保有有価証券のうち実質価額が著しく下落し、回復見込みが明らかでないものについて減損処理を行い、特別損失として投資有価証券評価損75百万円を計上しました。同じく本社移転に伴う費用40百万円を特別損失として計上しました。以上の結果、単体中間純利益は当初の予想を下回る見込みとなりました。連結業績では、当中間期から新たに連結対象となったSI系子会社2社が堅調に売上を伸ばしましたが、人材サービス事業における広告宣伝等の先行投資が発生し、損益面では当初の予想を下回る結果となりました。なお、連結・単体ともに前回発表の通期業績見通しは変更ありません。

以上

※上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。